



年頭所感

更なる明日へ向かつて

海士町長 山内道雄

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様の温かいご理解とご協力をいただき、町政經營に励むことができましたことに、深く感謝とお礼を申し上げます。

さて、海士町は、1月1日

に町制施行40周年という歴史に輝く節目の新年を迎えた。昭和44年新春の1月1日に町制を施行し、新制「海士町」が発足しましたが、当時の『広報あま』によりますと『今後の観光産業の進展を大いに進め、受け継がれてきた事蹟の誇りと発展する郷土を期するために、『村』を『町』に変えることが発展に有利であるとの結論をえて、従来から孤立する『寒村』というイメージの覆いを脱ぎ、ここに町制を実施し、住民の福祉向上を図りたい』とあります。

爾來40年、激動する社会経

済の幾多の荒波を乗り越え、今、海士町が全国から注目されるまでに発展を続けていることは、先人の郷土の未来を思う熱い『志』の英断と礎を築かれたご尽力の賜であり、改めて感謝と敬意を表すると

ころであります。そして、その後の『平成の大合併』の嵐の中でも、本町は敢えて覚悟の『単独町制』を決断いたしました。それは、自分たちの島は自分たちで守り、「島の未来は自ら築く」という先人の『志』を今も受け継ぐ住民と職員の郷土への『誇りとこだわり』が『自立への道』を選択させたと私は思います。

しかし、その直後に地方交付税の突然かつ大幅な削減で、町税にも匹敵する『地財シヨツク』は、島の存続さえ

も危うい緊急事態に直面し、当時の財政シミュレーションでは、平成18年度に『赤字』

となり、平成20年度(本年度)には、『財政再建団体』となることが予測され、正に危機一髪のところでした。そこで、島の生き残りを掛けた『海士町自立促進プラン』を住民代表と議会と行政が一体となつて策定し、『守り』と

振興計画によつて進めてきた『まちづくり』も本年度で終わり、新年度から向う10年を見据えた第四次海士町総合振興計画による新たな『まちづくり』がスタートいたします。

この策定にあたつては、公募で集まつた住民の皆さん、海士町で生活する中で実感している課題に基づいて深夜に及ぶ討論を重ね、そして、初めての試みとして各施策の中に『住民提案事業』を重点施策として位置づけています。

3月までに具体的な実施計

画を策定し住民の皆様には4

月以降に地区ごとに説明会を開催して、十分にご理解をい

ただきたいと考えております。

新しい年も恒例の事業の他

に、町民みんなで祝う記念事

業、後鳥羽院顕彰事業、昭和

と平成の名水百選による名水

サミット等々、交流と挑戦を

続けて参ります。

本年も一層のご協力とご支援をお願い申し上げ皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念し年頭のご挨拶と致します。

塩』の三本柱をキーワードに試行錯誤で取り組んだ産業施策は定住施策とうまく連鎖し、島の資源・伝統文化を活かした起業家が、新たな産業を生み出し、『合わせ技一本』の島型ビジネスが展開されつつあります。また、平成16年から大勢のU.Iターンの方が定住され、雇用創出にも一定の効果が出るなど、その方向性は確実なものとなっています。

そして、第三次海士町総合振興計画によつて進めてきた

『まちづくり』も本年度で終

わり、新年度から向う10年を

見据えた第四次海士町総合振

興計画による新たな『まちづ

くり』がスタートいたします。

この策定にあたつては、公

募で集まつた住民の皆さん、

海士町で生活する中で実感

している課題に基づいて深夜に

及ぶ討論を重ね、そして、初

めての試みとして各施策の中

に『住民提案事業』を重点施

策として位置づけています。

また、これまでの第三次海士

町総合振興計画の大綱が『キ

塩』の三本柱をキーワードに試行錯誤で取り組んだ産業施策は定住施策とうまく連鎖し、島の資源・伝統文化を活かした起業家が、新たな産業を生み出し、『合わせ技一本』の島型ビジネスが展開されつつあります。また、平成16年から大勢のU.Iターンの方が定住され、雇用創出にも一定の効果が出るなど、その方向性は確実なものとなっています。

それは、単なる『論』ではなく、住民の自分たちの島は『自ら築く』という挑戦の意志と、一人ひとりが、足元から小さな幸福を積み上げ、『海士らしさ』の追求をしようといふ想いが込められ、更なる『確かな明日』へ繋ぐ『まちづくり』を進めて行こうというものです。

たのに対し、第四次海士町総合振興計画の大綱は『島の幸福論』で、テーマも『変』から『論』に進化しています。

